

特集テーマ：「ESD」について

SD (Sustainable Development: 持続可能な開発 (発展)) の概念は 1980 年代に国際会議等で提起され、2002 (平成 14) 年の第 57 回国連総会では、我が国によって、2005 (平成 17) 年からの 10 年を「国連 ESD (Education for Sustainable Development) の 10 年」とする決議案を提案され、採択された。その後、我が国においては、内閣府に設置された関係省庁連絡会議において、2006 (平成 18) 年 3 月「わが国における『国連 ESD の 10 年』実施計画」が策定され、実施の指針や推進方策等が明確にされた。さらに、平成 20 年 7 月に策定された教育振興基本計画においては、今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策の一つとして、「持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進」が示された。平成 20 年、21 年に告示された学習指導要領においても、中学校、高等学校の一部の教科・科目に持続可能な社会の形成に関する事項が明記され、授業として具体化されていくことが期待されている。

ESD は世界のいろいろな国で行われているが、その展開方法は多様である。国立教育政策研究所は、2012 (平成 26) 年に我が国で開催予定の「国連 ESD の 10 年」最終年會合に先立ち、ESD の推進に向けて、ESD の国際的な潮流について、理念や実践に関する歴史的な経緯、地域毎の特色、各主体による実際の取組などを概観する機会とし、未来の教育の在り方を展望・考察できる国際シンポジウムを 2012 (平成 24) 年 12 月 18 日に開催した。シンポジウムでは、ヨーロッパ地域、北米地域、オーストラリアから ESD の専門家を招聘し、日本からの専門家も含め、講演とパネルディスカッションによって ESD に関する世界の動向を認識し、今後の課題について議論を深めることができた。

このような時期に刊行される本研究紀要の特集テーマとして、「ESD」を取り上げることが相応しいと思われた。そこで本特集は、この国際シンポジウムにおいて招待講演者として海外から招聘した専門家に、「ESD」について論文を寄稿していただくとともに、国立教育政策研究所の ESD プロジェクトに参加いただいた専門家と開発した ESD フレームワークを社会教育で利用していただいている実践者からの論文を 3 本収録した。

海外から寄稿された 3 本の論文は、各地域や国の学校教育に関連する ESD の現状と課題に関する最新の状況について論じられたものである。Ricard 論文「Trends and Issues of ESD in Europe」は、ヨーロッパの経済社会的背景の中で ESD が発展してきた経緯、ヨーロッパの ESD 戦略・施策と評価・指標、学校教育と高等教育の現状と課題と展望などについて論じている。Hopkins 論文「The Past, Present, and Future of ESD in the USA and Canada」は、カナダとアメリカ合衆国における ESD の活動状況、ESD の先駆的取組と成果、学校で ESD を実践するための 7 段階、ESD の推進力、ESD のための研修の現状、ESD のためのノンフォーマル教育の現状などについて論じて、今後の ESD の方向性を示唆するものである。Fien 論文「The Past, Present and Future of ESD in Oceania and Asia」は、アジアとオセアニア地域における学校教育での ESD の動向、革新的な実践事例、地域社会における ESD などについて総括的に論じていて、アジアとオセアニア地域の多様性に富む ESD が紹介されている。

そして、国立教育政策研究所のプロジェクト研究「学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究」に関連した 4 つの論文を掲載した。角屋・五島論文「The Past, Present and Future of ESD in Japan」は、ESD の認識の現状、学校教育で ESD を普及するための国立教育政策研究所プ

プロジェクト研究の内容と方法、プロジェクト研究の成果、教師教育などについて論じている。佐藤・五島論文「International Comparative Studies of Curriculum Framework with Regard to ESD in Schools」は、世界の ESD の概念や学校教育プログラムに関する国際比較研究で、海外の ESD の概念整理がなされていて示唆に富むものである。岡本ほか論文「The Education Practices Utilizing the “Framework Necessary to Design and Develop Learning Instruction Processes for Education for Sustainable Development (ESD)”」は、国立教育政策研究所が提案した「ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」を活用した教育実践に関するもので、その枠組みの有用性を検証した実践研究に関するものである。また、山本ほか論文「青少年教育施設における ESD の実践」は、信州高遠青少年の家が、南アルプスジオパークで、国立教育政策研究所が開発した ESD フレームワークを利用した社会教育プログラムを開発し実践し、そのプログラムの成果を統計的な処理を行って検証したものである。この2つの論文は、今後、学校教育と社会教育の ESD 展開について示唆を与えるものである。

この特集が、日本の ESD に関する今後の研究・実践を発展させる上で、参考になることを期待している。なお、論文の多くは英語で記述されているが、それらの関連する内容は、国際シンポジウム「ESD の国際的な潮流」報告書（2013 年 3 月）や国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究」最終報告書（2012 年 3 月）に日本語で示されている。

（五島 政一）